



「しぐさ」は子どもを知る手がかり



幼い子どものしぐさは、愛らしく、思わず見とれてしまいます。まだうまく言葉で伝えることができないとき、子どもは伝えたい思いをしぐさで表現しますが、これには、意図的に出すしぐさと、無意識に出すしぐさがあります。

「チック」などは、無意識なしぐさの代表的なものですが、子どもは出そうと思って出しているのではなく、何かしんどいけどなぜなのかわからない、うまく表せない、でもこれ以上辛抱できないという「心の叫び」としてのしぐさと言えます。

「チック」はめだつので気付くのですが、不登校や摂食障害・ひきこもり・不安神経症などの思春期の問題も、実はそうなる前のきわめて初期のころ、子どもは多くのサインを出していて、日常の忙しさに流されて、つい見落としてしまいやすいのです。

早めに気付いて対処すると、問題が大きくなる前に防ぐことができます。



まずは、わが子のいつものしぐさ・行動・話し方の癖をよく知っておくと、いつもと違う時に「おや、なんか違うぞ」と、すぐに気付くことができます。

しぐさを通して子どもの心を掴めたら、きっと親子の絆も深まるはずです。ぜひ、その目を磨いてください。

福田俊一・増井昌美著「しぐさで子供の心がわかる本」より